

博物館文化講座考 II —高校生博物館意識調査アンケートより—

多良間 利絵子

喜久川 智子

(沖縄県立博物館)

Evaluation on Research from the students of senior high schools.

Rieko TARAMA and Tomoko KIKUGAWA

(Okinawa Prefectural Museum)

I. はじめに

1974年（昭和49）から始まった文化講座は、2000年（平成12）で26年目を迎える。平成12年度には講座回数が300回となり、記念講演が行なわれる。前紀要では、文化講座参加者アンケートを行ない、その結果を元に文化講座について見なおした。

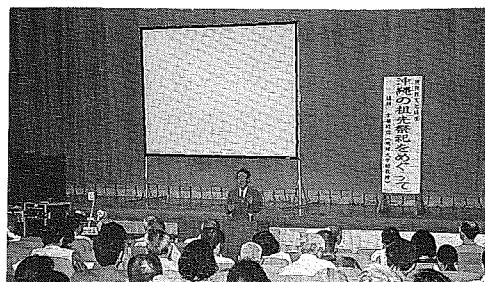
今回も前回と同様に、アンケートの集計を行なった。表II-1-①～⑤からも分かるように、ほぼ同じような結果が得られた。前回でも指摘されてはいるが、いくつかある問題点の一つとして、10代の参加者がほとんどないことが今回の資料からも言える。そこで、高校生の「生の声」を聞きたいということで、文化講座を含めた県立博物館への意識を、県内の高校生を対象に調査をすることにした。

なお、「前回」とは紀要25号を示し、1997年7月から1998年12月までの文化講座参加者へのアンケート結果であり、「今回」とは紀要26号のことである。

「II」では1999年1月から12月まで約1年間の文化講座参加者へのアンケートを、「III」では高校生意識調査アンケートの集計結果をまとめた。

II. 今回の文化講座参加者アンケート調査結果

1 文化講座参加者へのアンケート用紙は前回と同じものを使用した。結果については表II-1-①から⑤の通りである。受講者の年齢、情報入手先、受講回数、内容についての満足度、関心のある分野ごとにまとめた。今回の文化講座参加者の総数は529名で、その内、アンケートへの回答者数は143名であった。



'99 5/15 「沖縄の祖先祭祀をめぐって」
(赤嶺政信 琉球大学助教授)

文化講座参加者アンケート集計

表II-1-① 受講者の年齢

年齢	野鳥観察	グスク	祖先祭祀	まじない	金属文化	工芸技術	合計
10代	0	0	2	1	0	0	3
20代	0	1	8	4	1	5	19
30代	0	0	3	2	5	4	14
40代	1	2	11	8	0	1	23
50代	1	12	8	5	2	3	31
60代	3	5	11	9	3	2	33
70代以上	0	1	6	2	3	0	12
無回答	0	2	1	2	2	1	8
合計	5	23	50	33	16	16	143

表II-1-② 情報入手先

入手先	野鳥観察	グスク	祖先祭祀	まじない	金属文化	工芸技術	合計
テレビ	0	0	0	0	0	0	0
ラジオ	1	3	1	1	0	0	6
新聞	2	13	17	14	3	6	55
雑誌	0	0	0	0	0	0	0
看板チラシ	2	5	25	12	8	4	56
前回の講座	0	1	1	5	0	0	7
その他	1	1	8	4	4	6	24
無回答	0	0	0	0	1	0	1

表II-1-③ 受講回数

回数	野鳥観察	グスク	祖先祭祀	まじない	金属文化	工芸技術	合計
初めて	4	16	23	14	6	8	71
毎回	0	1	6	4	2	0	13
1年に回	1	4	16	6	5	2	34
その他	0	2	4	9	2	5	22
無回答	0	0	1	6	1	1	9

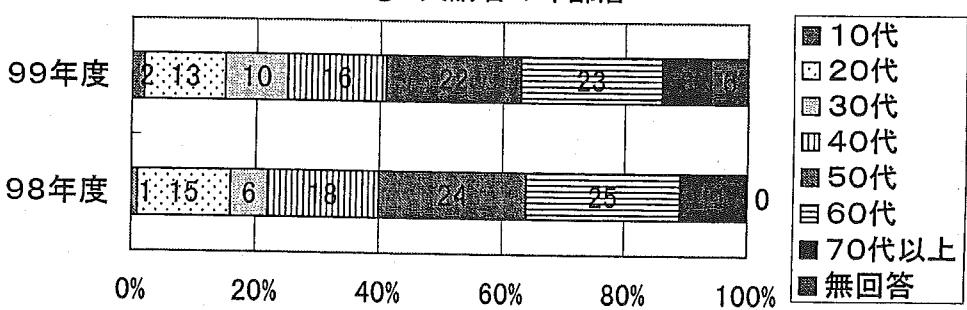
表II-1-④ 内容についての満足度

満足度	野鳥観察	グスク	祖先祭祀	まじない	金属文化	工芸技術	合計
満足	4	15	16	11	8	7	61
やや満足	1	5	17	11	4	4	42
普通	0	1	9	5	2	4	21
つまらない	0	0	2	0	1	0	3
無回答	0	2	6	6	1	1	16

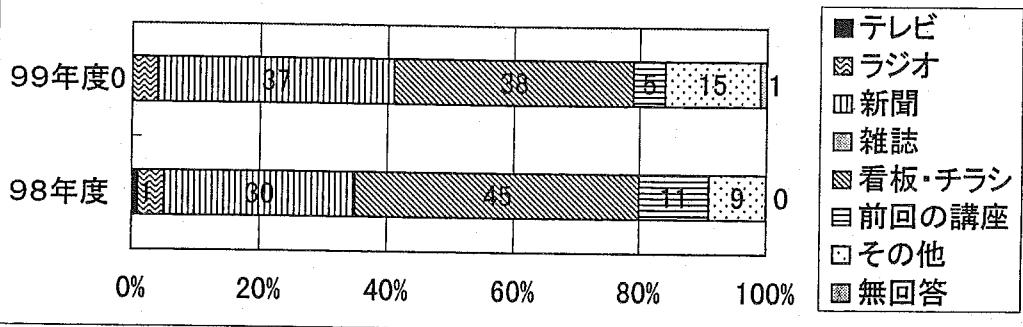
表II-1-⑤ 関心のある分野

分野	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無記入	合計
考古	0	6	4	3	5	15	2	0	35
歴史	0	8	10	12	22	22	9	6	89
自然	2	4	1	8	12	7	1	0	35
美術工芸	0	8	8	3	6	6	1	2	34
民俗	1	14	7	14	13	15	8	1	73
その他	0	1	0	0	0	0	1	0	2
無記入	0	0	0	2	3	1	0	0	6
合計	3	41	30	42	61	66	22	9	274

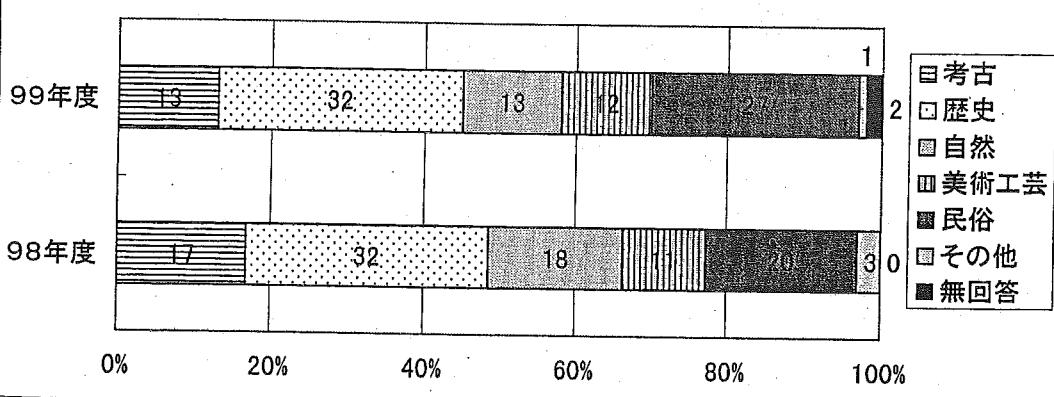
II-2-① 受講者の年齢層



II-2-② 情報入手先



II-2-⑤ 関心のある分野



2 今回のアンケート集計の結果、前回とはほぼ同じような回答が出た。文化講座の問題点として、若い人の参加が少ない、広報不足、文化講座の講演形式について等があげられる。

受講生へのアンケートは強制ではないので、受講した全員がアンケートに答えているわけではなく、講座によって回収率にもばらつきがある。③の受講回数に対する質問で、「初めて」との解答が多いのも、前述の理由が考えられる。

毎回出席している受講者が必ずしもアンケートに協力しているとは限らず、再度アンケート調査の見なおしも必要である。

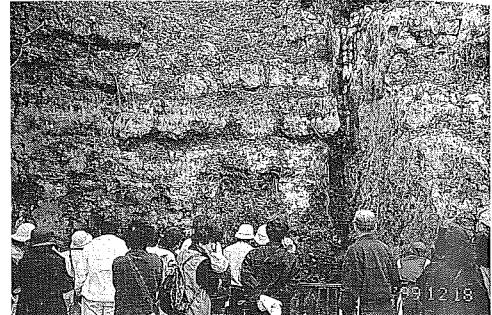
「広報」については前回と同様の結果ではあるが、どのような経路で情報を収集するかは各々異なるので、課題の多い問題である。情報入手先の一つに「県立博物館友の会」が毎月発行している『チャービラ』という意見もみられ、確実な情報入手先の一つになっている。

さて、今回取り上げた文化講座参加者の年齢層についてであるが、結果より10代の参加者が全体のわずか1%ということがわかった。10代の受講者数に注目してみると、前回と今回の参加者数を合わせても5名である。もちろん、アンケート調査は毎回行なっているわけではないので、講座によって参加者の年齢は変わってくるが、やはり、中・高校生の参加はほとんどない。

博物館側で計画する文化講座の内容は、若い世代が興味を示す内容ではないのだろうか。彼らはどのような文化講座に関心があるのだろうか。あるいは、博物館が行なっている行事そのものを、彼らは知らないのではないだろうか。そこで高校生を対象とした博物館意識調査を行ない分析、検討を行なってみた。

III. 「高校生意識調査アンケート」結果

1 まず沖縄本島を地域別に、北部・中部・南部、宮古八重山地域と4区域に分け、各地域ごとに3校を選び、1校1クラスを対象にアンケート調査を実施した（但し、球陽高校のみ4クラスの回答があったので、対象人数が異なる）。アンケート回答者数は566名である。資料III-1のアンケート用紙に回答してもらい、それを集計し、表にまとめた。



'99 12/18 「南部の遺跡めぐり」
(大城慧 県立博物館学芸課長)

資料III-1 高校生意識調査アンケート

1999年 月 日()

沖縄県立博物館 高校生意識調査アンケート

1 あなたは県立博物館に行ったことがありますか

① ある 

② ない 

2 1で「ある」と答えた人のみ、お書きください。最後に行ったのはいつですか

① 小学校 年生ぐらい
③ 高校 年生ぐらい

② 中学校 年生ぐらい



3 1で「ない」と答えた人は、その理由を教えてください



- ① 興味がない・つまらなさそう
② 難しそう
③ 交通が不便
④ 場所がわからない
⑤ その他()

4 県立博物館の行事を知っているだけ、○をつけてください

- ① 特別展
③ 移動博物館
⑤ 博物館シアター
⑦ 全く知らない

- ② 企画展
④ 文化講座・夏休み親子文化講座
⑥ 子ども体験学習教室

5 4の行事の中で興味がある・参加したいと思った番号を下に書いてください(複数可)



6 4の行事中の「文化講座」は、下に書かれている5分野の内容で行なわれています。
あなたならどの分野に興味を持ち、参加したいと思いますか、○をつけてください

講座内容の参考

- ① 考古 (港川人・石器・土器・グスク)
② 歴史 (琉球王国・首里城・沖縄戦・本土復帰)
③ 自然 (動物・恐竜・植物・昆虫・化石・星座)
④ 美術 (陶器・漆器・紅型・織物・絵画・彫刻)
⑤ 民俗 (祭り・信仰・芸能・生活道具・食べ物・農業・漁業・衣服・方言)
⑥ その他 (映画・音楽・演劇)



《特に希望する文化講座》

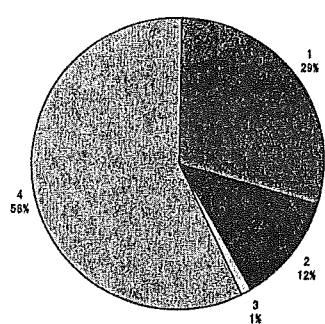
アンケートへのご協力ありがとうございました



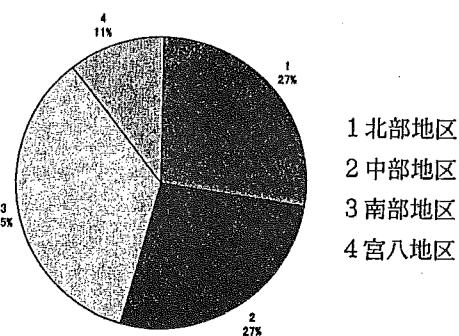
表III-2 高校生意識調査アンケート集計表

	北部			中部			南部			宮古・八重			合計
	北山	宜野座	北農	球陽	真志川	中部商	開邦	知念	首里	宮古	宮古工	八重山	
	50名	35名	32名	155名	35名	36名	40名	40名	35名	40名	32名	36名	566名
1-① ある	26	22	18	46	13	7	30	26	28	11	6	7	240
1-② ない	24	13	14	109	22	29	10	14	7	29	26	29	326
2-① 小1	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	4
小2	0	1	0	1	0	0	1	0	1	1	2	1	8
小3	0	0	0	3	1	1	3	3	4	0	1	1	17
小4	0	0	0	5	0	0	8	2	5	0	0	0	20
小5	2	0	2	9	0	3	4	4	1	0	0	0	25
小6	18	18	12	11	0	0	2	8	3	9	0	2	83
小?	2	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	8
小・計	22	20	14	30	2	4	18	20	16	10	3	6	165
2-② 中1	1	1	0	3	2	0	5	1	2	0	0	0	15
中2	1	0	0	9	3	0	4	3	3	3	3	1	30
中3	2	1	3	4	4	3	2	1	5	0	0	0	25
中・計	4	2	3	16	9	3	11	5	10	3	3	1	70
2-③ 高1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3
高2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
高3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高・計	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	5
	北部地域のみ			中部地域のみ			南部地域のみ			宮古・八重山			240
3-① 興味無	5	3	5	15	2	6	7	4	6	5	7	4	69
3-② 難しい	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	2	9
3-③ 交通	1	0	4	8	0	1	0	0	1	6	3	4	28
3-④ 場所	17	6	4	60	13	18	1	3	18	15	16	14	185
3-⑤ その他	3	3	2	29	7	6	1	6	6	4	3	8	78
無回答	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
4-① 特別展	2	2	1	17	11	4	12	6	4	2	2	1	64
4-② 企画展	0	0	1	7	4	1	4	3	1	1	2	0	24
4-③ 移動博	1	1	0	1	3	0	2	1	0	3	4	0	16
4-④ 文化講	1	1	2	7	4	1	5	3	1	0	1	2	28
4-⑤ シアタ	2	2	1	7	3	3	6	3	3	0	3	6	39
4-⑥ 体験学	1	0	2	5	0	0	3	1	0	0	0	2	14
4-⑦ 知らな	46	32	29	129	22	31	22	31	31	35	25	31	464
5-① 特別展	21	7	6	34	7	4	14	13	4	8	10	5	133
5-② 企画展	7	5	1	14	4	2	5	6	2	1	3	2	52
5-③ 移動博	4	9	5	20	7	5	4	10	5	10	3	4	86
5-④ 文化講	5	3	4	12	4	3	5	4	3	2	1	2	48
5-⑤ シアタ	12	7	13	49	12	7	8	15	7	9	6	4	149
5-⑥ 体験学	5	2	10	17	4	2	2	4	2	6	3	2	59
無回答	15	16	10	52	10	21	17	7	21	16	17	28	230
6-① 考古	7	3	3	10	4	0	4	4	0	2	0	2	39
6-② 歴史	14	11	4	30	4	7	10	9	7	5	3	9	113
6-③ 自然	17	11	7	49	13	5	14	16	5	14	9	6	166
6-④ 美工	10	4	11	35	7	7	13	10	7	8	7	4	123
6-⑤ 民俗	4	6	11	37	7	3	10	5	3	6	6	4	102
6-⑥ その他	16	13	12	60	18	14	12	14	14	17	19	5	214
無回答	2	4	3	14	1	8	2	1	8	4	2	16	65

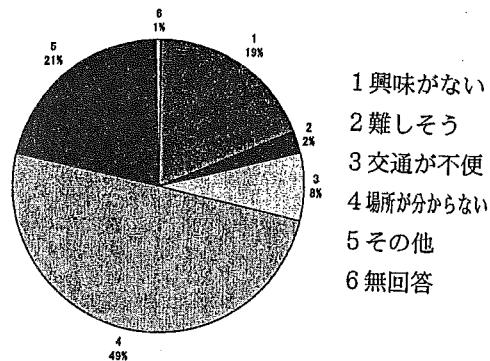
III-3-① 博物館に来たことがある／ない



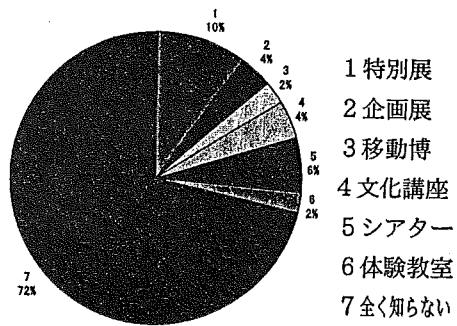
III-3-② 地域別に見た利用状況



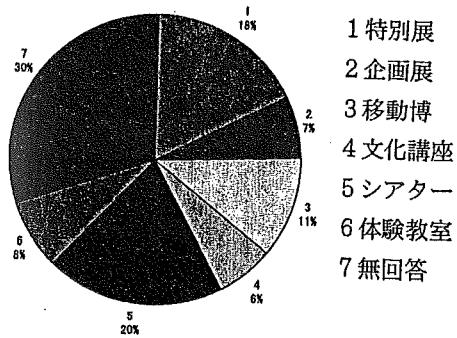
III-3-③ 博物館を利用しない理由



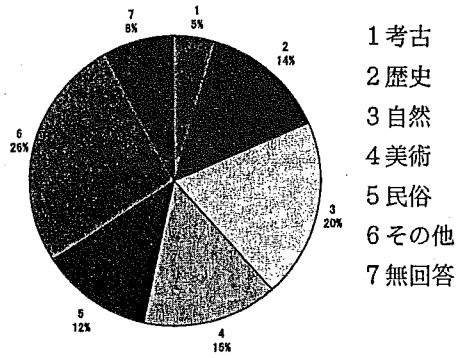
III-3-④ 博物館の行事を知っていますか



III-3-⑤ 参加してみたい博物館行事



III-3-⑥ 関心のある分野



2 集計結果より

(1) 博物館に来たことが「ある」か「ない」かという質問に対して、566名中、「ある」が240名、「ない」が326名で、約半数近くの学生が来たことがないことがわかった。さらに細かくその理由を質問したのが、次の(2)と(3)の項目である。

(2) 「ある」と答えた240名に対し、一番最後に行ったのはいつかという質問をしてみた。「小学生の頃」と解答する人がもっと多く165名、「中学生」が70名、「高校生」が5名の順となっている。最も回答が多くかった「小学生」を地域別にみてみると、北部地域は高学年時の来館が多く、恐らく修学旅行の際に来館したことが予想できる。南部地域は全学年にわたって利用されており、地理的にも来館しやすい環境にあると言える。それに対し中部、宮古・八重山地域は、来館者数が著しく少ないと分かった。

(3) 「ない」と答えた326名にその理由を尋ねてみると、「博物館のある場所が分からない」という答えが最も多く185名であった。もちろん地域別に見る必要があるが、予想外の回答であった。続いて多かった「その他」の78名の中には、とても残念なことに「県立博物館があることさえも知らなかった」という回答もみられた。また「行く機会がなかった」との答えもあり、学校や家庭の中で博物館の教育普及活動が、まだまだ認識されていないことが分かった。最も多いであろうと予想していた「興味・関心が無い」との回答は、3番目で69名であった。

(4) 現在行なわれている博物館行事について全員に質問したところ、566名中464名が「全く知らない」と答え、全体の7割を占めている。博物館を訪れたことがあっても、博物館の活動に対しては知らないという結果がわかった。また、今年「移動博物館」が開催された宮古島では、「移動博物館」を知っていたのは7名であった。

(5) 「参加してみたい博物館行事は?」との質問に対して、一番人気があったのは予想通り「博物館シアター」で、次に「特別展」、「移動博物館」の順であった。この質問に何らかの回答をしたのが7割近くいた。これは(4)の「全く知らない」と答えた7割と同じ割合であった。このことから、博物館行事に関する情報が得られれば、参加しても良いと考えていると、とることができる。

(6) 今回のアンケート調査の主旨でもあった文化講座についてでは、興味のある分野を答えてもらった。最も多かったのが「その他（映画・音楽・演劇等）」で、次に「自然」、「美術工芸」の順であった。特に希望する文化講座のテーマとして以下の講座内容があがっていた。歴史では「琉球の歴史」や「沖縄戦」について、自然では、「星座・宇宙」や「恐竜の化石」について、美術工芸では「絵画」や「陶器」「織物」「紅型」について、民俗では「祭り・芸能」や「沖縄の方言」、「沖縄料理」などがあがっていた。一番希望の多かったその他では、「映画」についての文化講座や、「体験学習」という意見もあがっていた。

資料III－2－②



《特に希望する文化講座》

戦争についてのこと。

〈理由〉現代の若者は真実を知らなすぎたと思うから。小・中学生の頃から毎年学習するけど、インパクトがちょっとずつうすくなっていると思う。



《特に希望する文化講座》

自然。星座とか天文に関する講座。あたらせぬ行きたいです。

他に民俗があもしろそう。沖縄の方言を見たり上げたらおもしろそう。方言をたくさんならしたい。



《特に希望する文化講座》

最後に行つたのが幼ながため、④の文化講座は全く矢印ませんでした。

私は本土から来たこともあります。沖縄独自の文化に非常に興味があります。

①～⑥の全部興味がありますが、やはりライターの祭り、特にエイサーやさんしん等は体験学習もしてみたいし、沖縄戦のことを本土からやわげかくでしょうか、あの本当の事柄よりもやさしく押さえきめて展示するようというのは何故か分かりません。ぜひ眞実をありとま、歴史のまま展示していただきたいと思ひます。

IV. まとめ

今回の「文化講座考Ⅱ」は、高校生への意識調査を行い、博物館に対する状況を把握することにあった。アンケートを行なう前にある程度回答の予想を立てていた。集計の結果はおおよそ予想通りではあったが、博物館行事が全く浸透していない事実には大変驚いた。

文化講座はほぼ毎月開催され、講座回数も300回目を数えるほど、教育普及のなかで最も浸透している行事だと思っていた。講座は一応一般を対象として行なわれてきたが、参加者のほとんどは中高年の世代で占められていた。中・高・大学生の参加者が著しく少ないのも、彼らを対象とした講座内容で企画したことがないからだと思っていた。

しかし、アンケートの結果「希望する文化講座」の内容からも分かるように、現行されている文化講座の内容と大きく異なっているわけではない。恐らく、博物館で行なっている行事を知らないので、情報として得ることがなく、上手く活用されていないのだろう。これまでの「広報活動」を見なおしていく必要性があるのかもしれない。

若い世代に参加してもらうためには、講演形式や、講演テーマ、開催時期等を見直さなければいけない。本年度開催された文化講座「まじないの世界～沖縄の魔除けと呪符の歴史～」の時の話である。参加者の中に下校途中の高校生が二人おり、講演途中で席を立って帰ってしまった。恐らく彼女らは講演のメインテーマから、興味を持ったものの、講演内容が彼女たちの考えたものではなく、あるいは難しくて、等の理由で席を立ったのだろう。このことから、講演テーマや講演内容の難易度等をどう設定するかも重要である。

さらには、講座内容がその時勢や話題性を伴っていることも必要になってくるだろう。映画「タイタニック」が上映されていた時に、アメリカの図書館でタイタニックに関する資料を展示していた。事故当時の新聞記事や文献などが展示されており、多くの観覧者を集めていた。このように世の中の動きにリアルタイムに対応していく柔軟な姿勢が、これから博物館にも必要であろう。

高校生の意見として興味のある分野、参加したい博物館行事に「映画」と答える人が最も多かった。「映画」をテーマとした展示会の実現は難しいが、講演形式で行なう文化講座なら可能であろう。「映画」の中の人物の生き立ちや当時の歴史的背景、社会環境を講演してもらうなど、講座内容を話題性のある映画や演劇等と結びつけることで、高校生のニーズに応えることができるかもしれない。

また「体験学習型」の希望が多く、工芸品を作つてみたい、着物を着てみたい等といった意見もみられた。受身だけの「講演形式」から、参加する「体験学習型」への取り組みも必要だと考えられる。

若い世代が希望する文化講座とは「身近な沖縄の文化や歴史」をテーマにした、より「体験的な」講座であることが分かった。これから文化講座を企画していく上で、その講演形式や内容、テーマ設定、開催時期、話題性等をどう取り入れていくかが課題となってくるだろう。

アンケート調査協力高校

県立北山高等学校	県立宜野座高等学校	県立北部農林高等学校
県立球陽高等学校	県立具志川高等学校	県立中部商業高等学校
県立開邦高等学校	県立知念高等学校	県立首里高等学校
県立宮古高等学校	県立宮古工業高校	県立八重山高等学校

ご協力大変ありがとうございました。